

初出場初優勝

九州女子シニアのリベンジ

コースの先輩たちの忠告を支えに

《ハンディキャップ競技九州大会》

【女子】

ネット68（ハンディ16、グロス84）

松原 瑞穂（鷹羽ロイヤル、56歳）



今年8月29日、筑紫野CC（福岡県筑紫野市）で開催された「第11回九州女子シニア選手権」に出場した松原は、その大会で彼女にとって屈辱的な成績を残した。53・51の104で出場128選手中119位タイ。下から数えた方が早かった。「絶対あの大会のリベンジをしようと思って練習しました。このままでは今年は終われない、と。成果が出て嬉

しい。優勝なんて初めて」と172cmの大柄な体いっばいに喜びを表した。

最後は笑っても、ラウンド中は苦勞の連続。アウトスタートの前半は4つのボギーで40で回ったが、そのうち3つは3パット。「ホームコース（鷹羽ロイヤル）はグリーンが重いけど、ここは速くて手が動かなかった」とグリーンに苦しめられた。インでも11番からの3連続ボギー後の14番ではセカンドを池に入れてトリプルボギー。「いつも後半は崩れることが多いけど、『せっかく来たんだから頑張ろう』と44で踏ん張った。トリプル後の4ホールでスコアを2つしか落とさなかったのが初優勝につながった。

大きな支えとなっているのがホームコースでよく一緒に回る70歳以上のベテランたち。松原に言わせると「レジェンド」。グリーン周りのアプローチからコースマネジメントなどをレクチャーしてもらおう。今回も出だしと最後の「1、9、10、18番は気を抜かないように」とのアドバイスを忠実に守って、この4ホールは全てパーでしのいだ。ポイントとなるホールを抑えられた点も大きかった。「レジェンドたちにいい報告ができます」と最高のお返しとなった。

クラブを握ったのは父親の影響で22歳からだだが、本格的に打ち込むようになったのはコロナ禍の2020年あたりから。今は福岡県宮若市で主婦をしながら、夜須高原CCなどで週2日のキャディーも務める。「ゴルフは修行のようです。気を抜いたら痛い目に遭う。『何とかなる』はないですからね」とゴルフに真摯に向き合う56歳だ。

メンバーで初優勝

夫婦で出場し、切磋琢磨

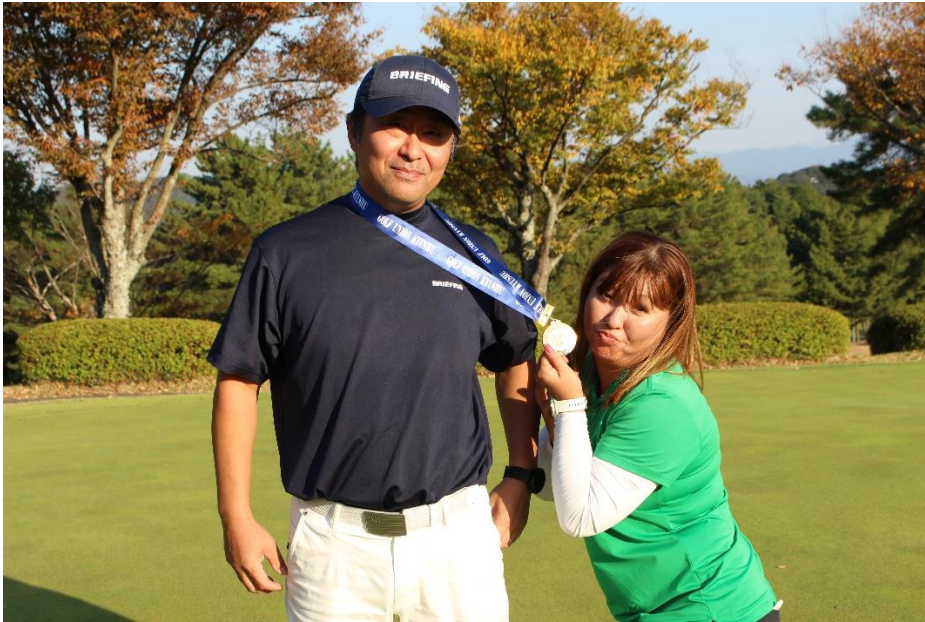
3バーディー、2ボギー71でベスグロ

《ハンディキャップ競技九州大会》

【男子】

ネット70（ハンディ1、グロス71）

工藤 謙太郎（福岡レイクサイド、46歳）



【男子の部優勝の工藤[Ⓔ]と女子の部に出場した彩夫人[Ⓕ]】

奥さんにエッペンである。今大会には男子で優勝した工藤夫人の彩も出場。こちらはネット78（ハンディ6、グロス84）で18位タイだった。「一緒に全国大会へ行きたかったんですが」と望みは叶わなかったものの、ネット70（ハンディ1、グロス71）、グロスでも出場96選手中最もいいスコアをマークして堂々の初優勝だ。

インスタート。出だしの10番で80ヤードの第3打を58度で80cmにつけて、いきなりバーディー。13、18番とボギーを叩いても前半を37で折り返すと、後半のアウトでは4番5m、9番3mのバーディーパットを沈めボギーなしの34。「目標は1アンダーでした。左ひじをケガしていて、ショットを力いっぱい打てなかったのが良かったかもしれません。怪我の功名です」と喜んだ。ホームコースは福岡レイクサイドCCだが、今大会を開催した茜GCの会員権も持ち、月例会など年間20ラウンドほどをこなすという。地の利を生かしての栄冠でもある。

ゴルフは父親の影響で中学時代から始めたが、本格的に取り組むようになったのは福岡レイクサイドCCのメンバーになった17年前から。現在の練習は週に1回200球を打つ。それも9Iで150球と残りのクラブで50球。なぜ9Iに集中するかと言うと「レイクサイドの先輩である須田（征司）さんから『1つのクラブでスイングを作れ』と言われてましてね」とアドバイスを長年守っている。須田さんはミッドアマの競技で全国大会に出場する実力者だが、今年49歳で他界した。須田さんとは自宅（福岡市西区）も近く、仕事やその他のことでもアドバイスを受けていたという。生きていれば、工藤の優勝を自分のことのように喜んだはずだ。

「全国大会へ出るとJAPANのタグがもらえますからね。頑張りますよ。その前に旅費をかき集めないといけません」。大会会場へは、もちろん夫婦同伴である。

